

スタッフ会員と入れ替わりにお母さんが朝5時30分に出社。子どもたちはお母さんの用意した朝食を食べて、スタッフ会員のサポートでお着替え。慌ただしい朝もこれなら安心です。



仕事も子育ても全力で。 働く親を応援します!

～緊急サポートネットワーク事業～

福島市

取材協力

NPO法人まごころサービス福島センター
〒960-8505
福島市本町2-10
福島学院大学福島駅前キャンパス内
TEL 024-522-1370

まごころ緊急サポートネットワークふくしま

福島市

みんなの育てる地域福祉

仕事を持つ親としては、子どもが病気になったときに直接看病してあげたいけれど、どうしても仕事は休めない。そんな経験をした方は多いのではないのでしょうか。今回ご紹介する「緊急サポートネットワーク」は、文字通り働く親からの緊急の要請に応え、子どもを預かるシステム。厚生労働省が各都道府県の法人に事業を委託し、福島県内では「NPO法人まごころサービス福島センター」一カ所が委託を受け、その運営を行っています。

緊急サポートネットワークなら 急な子どもの預かりも大丈夫。

NPO法人まごころサービス福島センターでは、平成18年12月に緊急サポートネットワーク事業の委託を受けて、「まごころ緊急サポートネットワークふくしま」を運営しています。このサポートを利用したい人はあらかじめ利用会員（登録・年会費無料 ※利用料金は左頁参照）として、子どものふだんの様子やアレルギーの有無など、いざという時に必要な情報を登録しておきます。そして子どもが病気になったときなど、援助が必要などときには電話で申し込みをすれば、事務局が都合のつくスタッフ会員を探してくれるというものです。子どもの病気のほかに、急な残業が入ったときの預かりなどにも対応しています。理事長の須田弘子^{すだひろこ}さんにお話をうかがいました。

「事業を運営して2年が過ぎ、利用会員は338名、スタッフ会員は

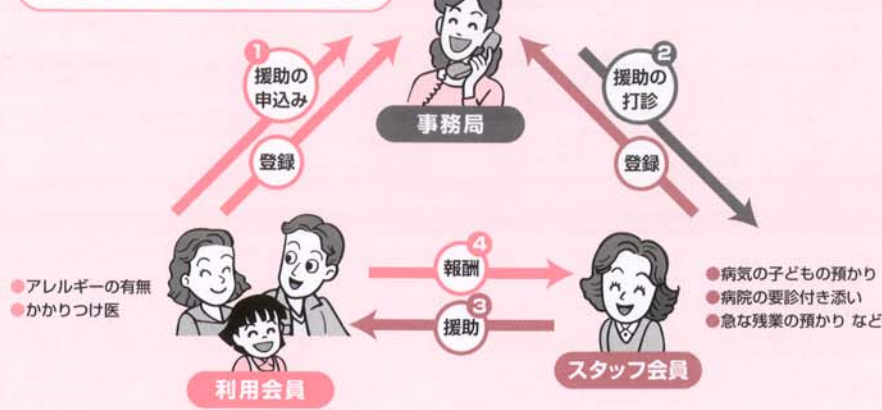


須田弘子理事長。「この事業は即応性がポイント。親御さんの動けないちょっとした時間を私たちが動きます」。

412名になりました（県内20支部・平成20年11月現在）。私たちの世代も共働きはありましたが、今では女性も働くのが当たり前という時代です。高度経済成長期を経験した大半の方は、子育ては大変、心から楽しめなかった…という実感があると思います。スタッフ会員が年々増加している背景には、そんな方たちがもう一度子育てに関わって楽しみたい、誰かの役に立つ喜びを知りたい、社会貢献してみたいという気持ちもあると思います」。

緊急サポートネットワークのスタッフ会員は、子育て経験者の皆さんをはじめ、看護師や保育士、ヘルパーなど、医療や福祉分野の資格を持っている人が多いのが特徴です。スタッフ

緊急サポートネットワーク



「緊急サポートネットワークふくしま」のサービス利用料金

【宿泊を伴わない場合】

9時～17時	900円/時間
9時前・17時以降	1,000円/時間

【宿泊を伴う場合】

22時間～翌朝9時	6,000円/1泊
(＋1,000円 自宅外の場合)	



緊急サポートコーディネーターの佐藤由紀子さん。「24時間体制ではじめは緊張していましたが、今は慣れっこ」と笑顔。

利用会員とスタッフ会員の間で、こまやかな調整を行うのが、事務局の緊急サポートコーディネーターの役割。事業の立ち上げ当時からコーディネーターとして活躍している佐藤由紀子さんは、「県内にある支部同士のコミュニケーションやスタッフ会員同士の情報交換なども盛んで、緊急サポートネットワークの絆は年々深まっていると感じています。私自身コーディネーターとして利用会員とスタッフ会員とのお互いの波長がマッチングするように心を配っています。数多く利用されている利用会員さんの中には、いつものスタッフ会員

利用会員とスタッフ会員のコミュニケーションも充実。

会員として活動するには、厚生労働省が定めたカリキュラムに基づいて、25時間の研修を受けなければなりません。そこで子どもの看護の基礎知識や体調が悪いときの食事の与え方など、必要な知識などを身につけます。

子育ては「将来の宝物」、地域での活動が大事。

さいごに須田理事長は、「子育てというのは本当に一時期。その一時期を楽しくおこなって、自分も成長する。そして地域の人にもたくさん見



総務・広報を担当する河野知義さん。「利用会員の約6割の方は30代の方。企業としても貴重な戦力といえますね。」

をお願ひします」とご指名で申込みをいただくこともあります。最近では病気や病後のお子さんの他にも、障がいのあるお子さんなども受け付けていますので、事業に寄せられる期待はとても高いといえます」と話します。

総務・広報を担当する河野知義さんは、「子どもの緊急の預かりは本来ならば平和なのですが、私のように広報する立場としては、利用者にPRがまだ行き届いていないのかなとか考えることも多いですね。これからは福祉に限らず、行政やNPO、民間企業などを含めて「子育て」というものを真剣に考えていく時代。横の連携が大切だと感じています。」



福島学院大学福島駅前キャンパスの4階にある事務所内で子どもを預かることもできます。

守ってもらって、子どもは成長していくものなのだと思います。その実現のために、緊急サポートネットワークがあることを知ってほしいし、もう一つは企業が子育て支援をしてもらいたいと思います。今は少子化ですから、子育てを地域ぐるみで行うということは将来の宝物を育てるということでしょう。それをみんなで見守っていくという視点が大事かなと思います。たくさんやらなくてもいいから、できる人ができることをして子育てに関わってもらえたらと思います。」

キャリアを失うことなく、子育てを楽しむ。働く親たちのニーズから生まれた緊急サポートネットワークは、これまでの保育サービスを補うシステムとして、働く親たちの大きなチカラとなりそうです。